

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:2022年4月1日

事業所名 スイッチプール

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		子ども一人あたり3.4㎡の床面性を確保、更衣室兼カームダウンのスペースも設けている	
	2 職員の配置数は適切である	○		児童指導員、障害福祉サービス経験者を常時2人以上、常勤指導スタッフとして配置し、加配スタッフも1名以上配置している	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		必要があれば階段をスタッフが手伝って、のぼるようにしている	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		スタッフ全員が同じ意図で支援に当たれるよう、指導終了後の振り返りを行ったり、月に一回の定例ミーティングで意見交換などを行ったりしている	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価表については今後活用する予定。保護者からの意見については毎回送迎相手いただいているので、その都度情報交換している	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで公表している	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		公開している	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		社外研修に行くなどして資質の向上の機会を設けている	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		モニタリング時に必ずアンケート調査を行い、保護者に聞き取り調査も行い放課後等デイサービス計画を作成してスタッフ間で情報の共有を行っている	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		まだ使用していないが、今後検討予定
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		毎回ミーティングを行い利用者へのアプローチをスタッフ間で共有している	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		毎回子どもと一緒に話し合っってプログラムを考えたり、保護者からのリクエストによって行っているため固定化はしない	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		保護者へのアンケート調査や聞き取り調査をもとに個別指導、ペア指導、グループ指導等行っている	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者へのアンケート調査や聞き取り調査をもとに個別指導、ペア指導、グループ指導等行っている	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		事前にその日の担当指導スタッフを子ども一人ひとりに指導スタッフを決めてメインとサポートの役割を決めている	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		全員でミーティングを行い反省点についての話し合いや次回への提案などを行っている	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		実績記録表とは別に個々の指導記録を記入し、スタッフ全員がいつでも見れるようにしている	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		6か月に0度アンケート調査と聞き取り調査などをもとに計画を作成している	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		ガイドラインを組み合わせ支援している		
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		可能な限り参加している	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		毎回利用時に保護者と情報共有を行っている その中で学校との情報共有が必要な場合は連絡を取っている	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		医療的ケアが必要な子供を受け入れていない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		必要があれば情報を共有していきたい
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		必要があれば情報を共有していきたい
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要があれば情報を共有していきたい
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	イベントなどで交流することがある	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	呼ばれた際は参加するようにしている	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	保護者に見学頂き、子どもの発達や状況や課題を話し合っている	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	運動に関すること家庭でのことその他子どもの相談などには随時お答えしている	
	保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時に適切に説明を行い、理解していただいている
31		保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている			
32		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	親の会などから要望があれば参加させて頂き、保護者の困りごとなどの理解に努めている	
33		子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	どんな些細な意見に対しても即時対応するようにしている	
34		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		予定の連絡などは手紙で行なっているが、今後はラインの導入なども検討中
35		個人情報に十分注意している	○	保護者とは利用時に普段の様子や最近の困りごとなど共有している	
36		障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	保護者とは利用時に普段の様子や最近の困りごとなど共有している	
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	相談がある場合は指導時間や電話で助言などを行っている	
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	誰でもいつでも一覧できるように訓練指導室に配置している	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	月に1回避難訓練等を必ず行っている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		保護者同伴なので虐待はあり得ないが、研修に参加したり、職員全体で共有している
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		保護者同伴なので身体拘束を行う必要はない
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食べ物は供給していない
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		様々な儀礼を作成してスタッフがいつでも閲覧できるようにしている	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。